

特

集

Special
Feature

あの日から、未来へ

南相馬市立総合病院の現在

2011年3月11日の“あの日”から2年余。そこで起きたさまざまな記録を歴史として語り継ぐことはもちろん大切だ。しかしそれだけでなく、プロである医療者としての情報発信、復興のプロセスなどを未来へ、世界へに向け積極的に発信することもまた重要だと信じる。放射線禍にさらされ、街が、絆が崩壊した南相馬市では、現在何が語られているのか。南相馬市立総合病院で復興に従事する医療者からの声を集めた。

小誌では次号よりコラム「あの日から、未来へ」の連載を開始します（隔週）。南相馬市、相馬市で住民とともに地域の、人間の復興に携わる医療者によるリレーエッセイです。ご期待ください。



震災前から医師不足 臨床研修病院の指定が自らの夢に

南相馬市立総合病院 院長 金澤 幸夫 氏

私は1979年3月、福島県立医科大学を卒業、同大学第一外科（現在臓器再生外科学講座）に入局、小児外科を専攻、2001年9月より小、中、高を過ごした原町の市立病院に勤務、05年4月より南相馬市立総合病院の院長となった。06年1月1日、原町市は隣接する小高町、鹿島町と合併し、南相馬市となった。小高区には市立小高病院、原町区に当院、鹿島区に鹿島厚生病院があり、合併後も独自に医療を行っていた。震災後、各区は南相馬市としていまだ十分融合しておらず、それぞれ独自に動いていると感じた。

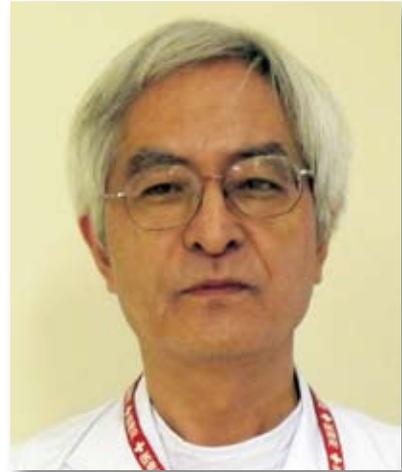
当院医師数の年度ごとの推移を表に示した。04年、常勤医師数は18人（全員福島県立医大卒）で、2人以上の診療科が多くもともと充実していたが、この年より卒後臨床研修が義務化された。05年より医師数は減少していく。10年まで消化器内科が1人から0人に、循環器科が3人から1人に、小児科、泌尿器科、産婦人科が2人から1人にとそれぞれ減少した。常勤1名では、当然のことながら365日24時間、1人の医師が責任を負うこ

とになるのでバーンアウトの可能性が高く、最低2人体制でないと持続的な医療は困難と考える。このような状態でも公的病院として通常の診療、救急の受け入れを求められた。この間、市内の病院も同様に医師が減少。脳外科は当院のみとなり、心筋梗塞に対するPCIが可能な施設は消滅した。

私は院長になった年から消化器内科を中心とした内科医になり、週4日外来、1日内視鏡検査・治療を行った。1日30～40人の外来診察、4～5人の新入院患者の指示を書き、外来を午後6～7時に終え、その後30人以上の入院患者の回診を行い、5.7日ごとに1人の患者を看取る日々を過ごしていた。出身医局からの外科医の派遣、嘱託医の採用などで病院を維持しようとしたが、求められる業務量は多く、また専門性も求められ市民の要望に答えられなかった。

これらの事態に対応すべく06年10月より市の事業として、夜間小児救急外来が開始された。これは、相双地区で開業する小児科医、規定の講義を受けた内科医27人が参加、当院の救急外来を用い365日、

午後7時から10時まで小児救急をみる事業である。年間約3000人が受診、この時間に受診が集中すること、年間の入院数は1人から19人と減少し当直医、小児



金澤幸夫院長

科医の負担の軽減につながったと考える。また、08年6月25日、南相馬市長、病院長名で非常事態宣言（地域医療確保に関する決意表明）が行われた。その内容は医師不足の状況について市民に周知し、適正な受診を呼びかけ、受診制限も視野にいたったものであったが、効果は限定的であった。

06年の10万人当たりの医師数を見ると、日本全体では206人、福島県176人、県北（福島市）232人、県中（郡山市）180人に対し、相双地区（南相馬市を含む相馬郡、原発事故の発生した双葉郡は1つの医療圏）は110人であり、医師不足は明白である。相双地区の医師不足の原因として、交通の便の悪さと医師の子弟の教育の問題が上げられる。さらに、卒後臨床研修が義務化され医局に残る医師が少なくなり、当院のような地方の病院への派遣が減ったと推測する。

震災後、医師が4人になり病院の存続が危ぶまれた。その後、医師が徐々に増え病院機能も回復するにつれ、臨床研修病院の指定が自分の夢になった。それは、卒後臨床研修の功罪に関わらず、研修医を取れない病院での医師確保は困難であり、いずれ破綻すると考えたからである。

年度ごとの医師数（南相馬市立総合病院）

年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
小児科	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	0
消化器科	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
循環器科	2	2	2	3	3	1	1	1	1	1	1
泌尿器	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	0
産婦人科	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	0
脳外	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2	1
整形	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0
外科	2	2	2	2	3	3	3	3	3	4	2
麻酔科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
リハビリ科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
内科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
計	16	17	17	18	16	14	14	14	14	15	4